

季刊

唯物論研究協会編集

思想と現代

1988

13号

特集

● 宗教の覚醒

現在の宗教ブームをどうみるか
〈座談会〉
宗教ブームをどう読むか

新興宗教と現代の宗教意識

信楽峻磨／飯 峯明／鯨坂 真

気枯れ社会の霊術宗教

現実に対する宗教の積極的関与の

キリスト教に将来はあるか

教義的可能性について

宗教の科学的研究の

課題について

亀山純生

橋本左内

山口和孝

発売元

白石書店

大月書店

東京文京本郷2 11 9
電話03(813)4651(代)

マルクス主義的人格論の試み

人格とイデオロギー

ピーター・レナード著／茂木俊彦、宗沢忠雄訳 人間の人格はどのように形成されるのだろうか。家族、性差、教育、労働など具体的に豊富な事例のなかに人格の発達を考察する知的冒険。46判・25000円 実践的真理観の探求

ヘーゲルにおける現実性と概念的把握の論理

(増補版) 許萬元著 ヘーゲル哲学の批判的検討をとおして、弁証法の研究を精力的におこなってきた著者の理論的骨格をなす力作。A5判・35000円 時代に立ち向かうとは何か

ヘーゲル 伝記と学説

ビーダーマン著／尼寺義弘訳 世界的転換点に立つ今日のわれわれに、生きることと時代に立ち向かうことの何たるかを確信させる。A5判・25000円 歴史家がえがく宗教の社会史

イギリス宗教史

浜林正夫著 ヨーロッパの歴史と文化は、宗教をぬきにして理解できない。本書は、社会経済的背景の中に宗教を見事に捉えた力作。A5判・30000円

白石書店

東京都千代田区神田神保町1-28
☎03(291)7601 振替東京2-16824

戦後思想の再検討

東京唯物論研究会編

民衆の側からの戦後思想を総括、再検討し、歴史的岐路に立つ現代日本の指針を探る。

人間と文化篇

定価二五〇〇円 千250

思想の戦後史をどうとらえるか——高田求／論理学論争について——仲本章夫／戦後思想の人間論——吉田正岳／文化運動と高度経済成長——佐藤和夫／戦後思想の方法と文学——山根献

政治と社会篇

定価二四〇〇円 千250

戦後四〇年の思想——芝田進午／大衆社会論争——後藤道夫／戦後民主主義の現在——吉崎祥司／「脱産業化社会」の夢と現実——石井伸男／批判的視角からみた技術の論理——鳥居廣

季刊 思想と現代

1988年5月
第13号

唯物論研究協会編集

発売元 白石書店

目次

特集 宗教の覚醒

——現在の宗教ブームをどうみるか

〈座談会〉

宗教ブームをどう読むか?	信楽峻磨 / 飯峯明 / 鯨坂真司会 / 河野勝彦	3
新興宗教と現代の宗教意識	田平 暢志	28
気枯れ社会の霊術宗教	西山 茂	43
——宗教的実感主義の台頭とその背景——		
現実に対する宗教の積極的関与の教義的可能性について	亀山 純生	55
キリスト教に将来はあるか	橋本 左内	72
——戦争責任の告白と平和責任の実行——		
宗教の科学的研究の課題について	山口 和孝	84

文化時評

霧が晴れる日(2)——階級の見える大衆社会の誕生——	志田 昇	103
----------------------------------	------	-----

読書ノート

現代を読み解くトレーニング	佐藤 春吉	110
——藤田勇編『権威主義的秩序と国家』——		

もう一つの思想家像

大杉栄私記	清 真人	119
ベンヤミンと貧しさの経験	吉田 正岳	132

書評

鈴木正著『思想史の横顔』	石井 伸男	144
アーレント著・ベイナー編『カント政治哲学の講義』	森下 直貴	145
有井行夫著『マルクスの社会システム理論』	角田 修一	146

前号批評

特集「アジアのなかの日本」を読む	新浪 惇介	147
------------------------	-------	-----

こだま / 編集後記

装幀 フレッシュ・アップ・スタジオ・渋川泰彦